

1-3-23 田上家住宅（市指定文化財）

所在地	高山市丹生川町根方 532 番地
所有者	田上 智
指定年月日	平成 19 年 2 月 22 日
構造形式	3 棟、庭園・門及び塀一式、建物敷地

田上家当主田上太郎四郎が、日下部家住宅を造った川尻治助に依頼した農家建築で、明治 15（1882）年に建てられた。完成までに 12 年の歳月を要したといわれる。

主屋は桁行 12.5 間（けん）、梁間 7.5 間（けん）と大規模。建物は木造 2 階建ての切妻造で平入であり、屋根は現在瓦葺きである。主屋正面は真壁のデザインを基調としつつも隈切り窓を入れ、近代の様式も取り入れている。屋根と小庇がせり出し、屋根の軒は「せがいで造り」。出桁を受ける腕木は、大工の稲尾三郎による「雲」と呼ばれる意匠の持ち送りが支えている。

土間では 1 尺角の大黒柱と、4 間（けん）ものと呼ばれる松の巨木を使った豪快な梁に圧倒される。本座敷には付書院を持った本式の床の間があり、黒漆塗りの床框や違い棚といったしつらえである。

町屋建築である日下部家住宅と共通の意匠を取り入れ、贅を凝らした造りである。共に近世までの規制から解放されて、棟梁の技が光る近代民家建築の代表作である。

説明板より